

スカラシッププログラム 2018

領域等	皮膚科学
プログラム	皮膚の常在細菌叢の変化と皮膚慢性炎症性疾患、感染症
一般目標	医学研究の意義を理解し、臨床の場でも役立つ思考プロセスを習得する
個別目標	<p>1) ベーシック (医学部1, 2年) 文献検索, 遺伝子情報検索を習得し, さらに入手した情報内容を理解する。 疑問を解明するための仮説, 証明するための実験, 得られた結果に対する考察というプロセスを学ぶ。</p> <p>2) アプライド (医学部3年) 研究チームの一員として, 自主性と責任感をもって医学実験に参加する。 行った実験の手技およびその結果についてまとめ, その意義を評価・考察する。 行った評価・考察に基づいて, 求める仮説を説明するための実験計画を構築する。</p> <p>2) アドバンスト (医学部4-6年) 研究チームの一員として医学実験に参加し, 結果の評価・論文の作成に携わる。 教室内カンファレンスや学会で研究成果の発表をおこない, 成果を発信する。</p>
評価	各人が設定した目標事に, その理解度を評価する
担当者	松江弘之 (教授), 松岡悠美 (講師), 若林正一郎 (助教)
メールアドレス	yumi01@chiba-u.jp (松岡)
内線	5 3 3 2 (医局), PHS 72612 (松岡)
オフィスアワー	月火水木 9:00~17:00
プログラム内容	
<p>皮膚科では, 臨床に携わる者として, 日頃の診察の中で感じた疑問点を出発点とした研究を目指しています。今回はその中から「皮膚の常在細菌叢の変化と皮膚慢性炎症性疾患、感染症」のテーマを紹介しします。皮膚科領域で有名な常在細菌叢の変化を伴う慢性炎症性疾患といえばアトピー性皮膚炎です。アトピー性皮膚炎患者皮膚には健常人では通常認められない <i>Staphylococcus aureus</i> の定着が9割を越す患者で認められますが、その病的意義は不明でした。当教室からミシガン大学病理学教室に留学させて頂き 2013 年に、この病態の一部を解明し報告しました¹⁾。またさらに、黄色ブドウ球菌の毒素が表皮角化細胞のアラーミン放出を引き起こし、IL-17に依存する皮膚炎を惹起することを見いだしました²⁾。今後、医学研究領域で皮膚常在菌の健康への関与がさらに活発に研究されることが予想されます。アトピー性皮膚炎やニキビ、水虫などの皮膚真菌症など、みなさんがよくご存知の疾患についてまだまだわかっていないことはいっぱいあります。</p> <p>臨床を目で見ることができ、疑問に思ったことを解析できる皮膚科研究の楽しさを体験したいと思う熱意ある学生をお待ちしています。また、研究への参画を契機として、教科書に掲載される前の最新情報の収集、臨床の場での観察に基づいた仮説の立案と、それを証明するための実験手技の習得、得られたデータのまとめ方と考察、そして成果を基にした仮説の検証というプロセスを学び、医学を消費するだけでなくその創造に貢献できる資質を身につけて欲しいと願います。学生さん個々のライフスタイルに合わせた、プログラム内容の対応にも応じています。</p> <p>1) Nakamura Y. et al. (2013) Staphylococcus δ-toxin induces allergic skin disease by activating mast cells. <i>Nature</i>. 503(7476): 397-401 2) Nakagawa S. et al. (2017) Staphylococcus aureus Virulent PSM α Peptides Induce Keratinocyte Alarmin Release to Orchestrate IL-17-Dependent Skin Inflammation. <i>Cell Host Microbe</i>. 22(5):667-677.</p>	